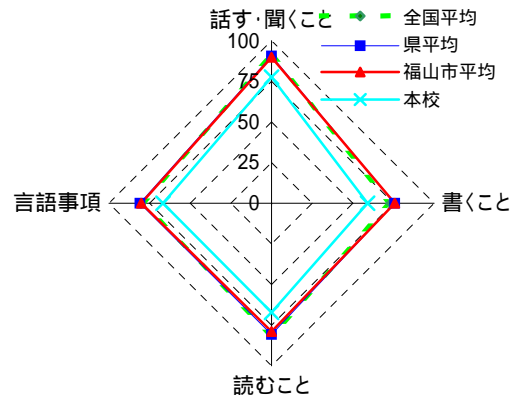


国 語

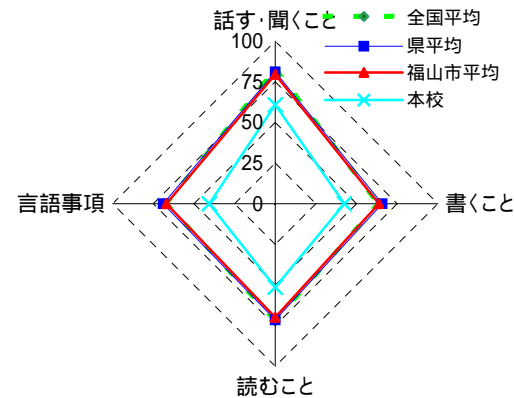
全国学力・学習状況調査正答率（A問題）

全国平均 81.6% 県平均 82.4%
 福山市平均 81.6% 学校平均 68.4%



全国学力・学習状況調査正答率（B問題）

全国平均 72.0% 県平均 72.0%
 福山市平均 71.0% 学校平均 52.0%



全国学力・学習状況調査に関する校内研修の内容

全職員で国語・数学のB問題を解き，職員間で分析をしながら，出題の趣旨をつかんだ。
 出題の趣旨を基にし，今生徒たちに求められている学力は何か，職員間の討議を通して把握していった。
 国語・数学以外の教科についても，これからの授業で行える工夫改善について検討した。また，授業の中での絆づくりを大切にしたい取り組みの方向性も打ち出すことができた。

重点課題（ : 全国学力・学習状況調査）

A問題・B問題ともに，各領域・観点で全国・県・市の平均を大きく下回った。特に，B問題の結果では全国平均を20%も下回る結果となった。基礎学力不足に加えて，知識を「活用」する能力での課題が大きい。
 A・B問題ともに「書くこと」に関する正答率が低い。特に，記述式問題における「無解答率」が20%を超えており，大きな課題である。
 言語事項では，「貸す」の書き，「繁茂」の読みなどに課題がある。また，主語と述語の対応や副詞の呼応など一部の問題の「無解答率」が高い。

重点課題・校内研修に対応した改善する指導内容及び方法

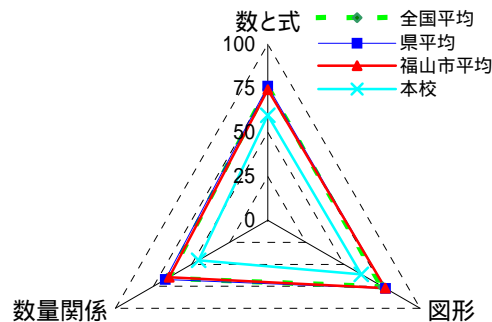
書くことに対する抵抗感をなくすために，国語科の授業の中では，辞書を使った語句の調べ学習や短文作りの練習をこまめに続けていく。そうしてできた短い文をつなげていくことで長い文章を完成させていく道筋を経験させていく必要がある。書いたものに対しては必ず評価をし，生徒に返していくことで「書く喜びや楽しさ」を経験させ，無解答を減らしていくよう指導する。
 毎日の漢字練習は継続しているが，新出漢字だけでなく小学校の配当漢字の定着を図るために，小学校配当漢字を中心にした漢字小テストを実施している。1回のテストで終わらせず確認テストを実施するなど繰り返し学習を進めていく。
 学習意欲を失わせないように，基礎的な学習内容を精選し，繰り返し学習することを通して，内容の定着を図る。その際，少人数指導などの利点を生かして，個々の生徒の実態に合った指導を工夫することを今後も継続していく。

数 学

別紙 4-4

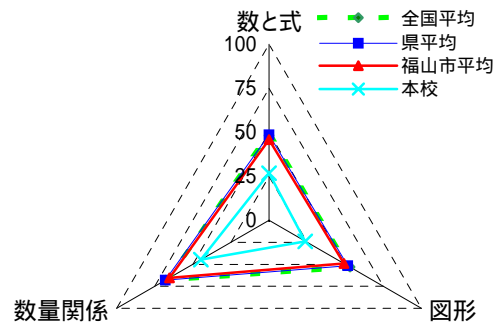
全国学力・学習状況調査正答率（A問題）

全国平均 71.9% 県平均 73.3%
 福山市平均 71.9% 学校平均 55.3%



全国学力・学習状況調査正答率（B問題）

全国平均 60.6% 県平均 60.6%
 福山市平均 57.6% 学校平均 37.1%



全国学力・学習状況調査に関する校内研修の内容

全職員で国語・数学のB問題を解き，職員間で分析をしながら，出題の趣旨をつかんだ。出題の趣旨を基にし，今生徒たちに求められている学力は何か，職員間の討議を通して把握していった。国語・数学以外の教科についても，これからの授業で行える工夫改善について検討した。また，授業中での絆づくりを大切にしたい取り組みの方向性も打ち出すことができた。

重点課題（ : 全国学力・学習状況調査）

「A 問題」における「5(4)底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している」「14(1) 確立の意味について理解している」の正答率は、それぞれ 33.3%、31.9%で、数量・図形などについての知識・理解の定着に課題が見られる。
 「B 問題」における「5(2)グラフ上の点の並び方を理想化、単純化してとらえることができる」「5(3)問題解決の方法を数学的に説明することができる」の正答率は 14.5%、15.9%で、数学的な見方や考え方の定着に課題がみられる。
 「B 問題」における「3(3)問題解決の構想を立て、結果を振り返りながら、数学的な表現を用いて説明することができる」の無答率が高いことから、読解力・表現力の定着に課題がある。

重点課題・校内研修に対応した改善する指導内容及び方法

図形問題は，単に知識として身につけさせるのではなく，実験や実測，実際にそのものを見せていくことを通して，量感を確実に身につけられるような取り組みをし，数学に対する知識や理解を高める。
 数学的な物の見方と日常生活を別ものとするのではなく，日常生活の中に見られる事象を教材化していくことを通し，教材を工夫することで，数学の見方や考え方を高める。
 読解力・表現力の定着のためには，説明すべきことからの根拠と，それによって説明される結論の両方を述べる機会を意図的に設定し，言葉だけでなく，記号や式など数学的表現と組み合わせると，より簡潔でわかりやすい説明になることを習得させる。また，日常的な場面を通して，得られたデータをもとに，数学の問題としてとらえることを経験させるなど，数学の知識や技能を活用する場面を積極的に設ける。